

芦田	中学校区	校番 40	福山市立 有磨小 学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月1日	

I 福山市

ミ ッ シ ョ ン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビ ジ ョ ン	各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題解決・意思決定、コミュニケーション、思いやり
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや行事紹介写真資料などを当日配布し、学校の取組や近況を具体的に説明した。</li> <li>校区内の3校を順に会場とし、評価委員全員にそれぞれの学校を見ていただいた。</li> <li>校区内児童生徒が伸びるようにそれぞれに工夫をして、教育活動に当たっていく。</li> <li>行事の開催や取組の仕方について、今後も保護者・地域住民の方々への理解と協力を仰ぐとともに、連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた状況と温かい雰囲気の中で、生き生きと活動している。</li> <li>基礎学力は概ね定着しており、学習に対する意欲は高い。グループでの活動により、発表できるようになっている。また、協働的に課題を解決しようとする意欲も出てきている。</li> <li>友だちの意見から自分の考えを深めることはできるが、表現することには課題がある。</li> <li>「自分にはよいところがある。」の肯定的評価の割合は、高まっている。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさと芦田に愛着と誇りを持ち、未来を切り拓き、たくましく生きる児童生徒
		中学校区として 統一した取組等	<b>「児童生徒主体の学び」の創造</b> ○取組推進のための校区全体研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを深め、表現する授業づくり（主体的・対話的・深い学び）</li> <li>考え、議論する道徳の授業づくり（理論研修・教材分析・授業研究会）</li> <li>学力・生徒指導・体力向上（調査結果の分析・改善策の検討・取組実施）</li> <li>SDGs教育の推進（教育活動への位置付け・教科や学年を超えた枠組の構築）</li> </ul>

III 自校

ミッション	育成する 資質・能力	課題解決・意思決定	コミュニケーション	思いやり	
21世紀をたくましく生き抜く知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童を育成する	小1・2	課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。	自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。	学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。	
学校教育目標	めざす 子ども像	小3・4	課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。	友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。	学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。
現状	小5・6 中1	自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。	話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。	学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。	
〈児童〉 本校の児童は、決められたことをよく守ろうとしたり、何事にもまじめに取り組んだりするなど集団として規律ある行動をとることができる。全国学力学習状況調査やCRT検査等の諸学力調査は県及び全国平均並の通過率で、基礎的学力はおおむね定着している。一方で、新しいことや経験のないことに挑戦することを躊躇する傾向があり、進んで表現することをためらう様子が見られる。また、何ができていて、何ができていないのか、自分自身で見取ることが十分できていない。そのため、「自己の考えを話し、自己の考えを高める」「他者の考えを聞き、自己の考えを深める」「学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめる」ことに課題が見られる。	中2・3	自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。	多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。	地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心を持ち、その気持ちを行動や言葉に表している。	
〈授業〉 昨年度は、学期に一単元重点単元を設定し、「児童の気づきと学びをつなぐ」単元づくりを柱として授業改善の研究を進めてきた。ねらいの達成を見据えた授業の研究を通して一定の成果が得られた一方で、以下のような課題も明らかになった。 ① 教師が単元全体を見通して、「この単元でどのような力を付けるのか」を明確にした単元構成が十分ではなかった。具体的には、単元のどの段階で、教師がきちんと教えて、どこを児童に考えさせ、学び合わせるかを焦点化したり明確化したりすることに課題があった。 ② 児童自身が成長を実感し、主体的に学ぶ姿へつなぐ「学びの自覚化」が不十分だった。 ③ ねらいに応じた課題の設定や評価の仕方が不十分だった。	テーマ	自ら考え、伝え合いながら学びに向かう児童の育成			
	研究	内容等	<仮説>つけたい力を明確にするとともに、児童自身に学びの振り返りを適切にさせることができれば、主体的に学習に取り組むであろう。 ○児童の「言葉」と「気づき」でつないでいく授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>解決する必然性のある教材や課題に出会わせ、見通しをもって学ぶことができる授業</li> <li>次時へ活きる振り返りの充実</li> </ul>		
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成すべき資質能力を明確にした適切な「ねらい」のある授業</li> <li>評価規準が「ねらい」と整合している授業</li> <li>「めあて・課題・まとめ・振り返り」を適切に位置づけている授業</li> <li>児童に考えさせる時間が学習活動に位置づいている授業</li> <li>個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童への指導の工夫がされている授業</li> </ul>			